

京都・山科区●あきらめないがん治療

# 末期がんでもできる腹腔内がん治療

医療法人社団 貴正会

村上内科医院 院長 村上正志 医学博士

統合医療により、副作用の少ないがん治療を目指している医師が、今回、腹水、胸水で苦しんでいる高齢者やがん末期の人でも、体に負担の少ない、ポートを使った腹腔内（胸腔内）がん治療を行っている。現在全国（北海道〜九州）より相談や治療に応じている。

また最近では腹腔内がん治療を、副作用の強い従来のがん治療を拒否する方に、勧めて効果を挙げている。

さらなる試みとして、体力のある若い患者におけるステージⅣの進行がんに対して、従来のがん治療に加え、腹腔内がん治療を併行して行っている。

キーワードは、がん性腹膜炎、腹腔内がん治療、全身化学療法、コンバージョン手術。



●PROFILE 村上正志(ムラカミ・マサシ)

京都府立医科大学卒業。  
元京都府立医科大学客員講師。  
統合医療、抗加齢医療、点滴療法、ハイパーサーミア（温熱治療）等、幅広い視点から、がん治療に取り組んでいる。

## がん性腹膜炎で治療法がないと言われても

お腹には色々な臓器があり、そこから発癌します。がんが大きくなるとがん細胞が散らばり（腹膜播種）やがて腹水が発生し、最終的に腸閉塞、黄疸などがおこると短期間で生命の危険な状態になります。

腹腔内がん治療とはお腹に埋め込んだポートから直接抗がん剤を注入する治療法です。

一般的な点滴による全身化学療法では抗がん剤はごく少量しか腹腔のがん細胞には届かず、十分な効果が得られません。一方で腹腔内がん治療は、全身化学療法に比べ、腹腔内のがん細胞に直接効くため効果が得やすく、また抗がん剤の使用量が少ないため、副作用が少ない治療と言われています。

そのため治療法がなくなり、ホスピスを勧められた方、高齢の方でも治療は可能です。

## がんの根治をめざして

現在進行癌に対し、全身化学療法で、病巣を縮小させてから手術（コンバージョン手術）が、よく行われています。

今までステージⅣのがんにに対し、根本的な治療はないと言われていました。

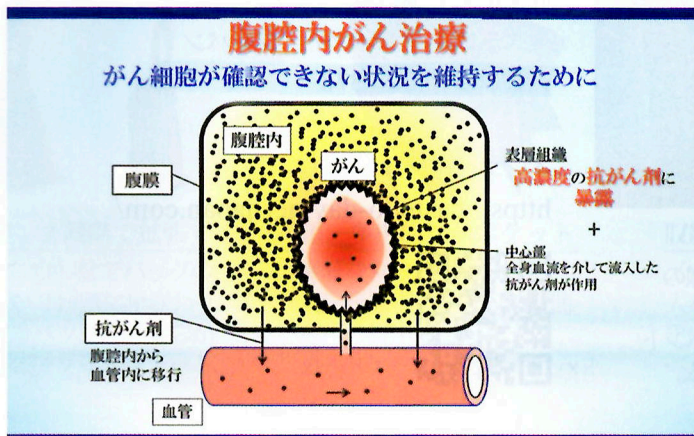
しかし、当院でそのような方が、コンバージョン手術を受けた、という実績も出ています。

50代の女性。胃癌の腹膜播種と診断され、手術不能で昨年末余命宣告を受けました。しかし、全身化学療法と併行して当院にて腹腔内がん治療を8ヶ月実施後、あらゆる検査で腹腔内がん細胞が確認できない状況を維持できたため、胃のコンバージョン手術を行い、術後も元気にされています。

当院では腹腔内がん治療を受けて頂くすべての方に、コンバージョン手術ができる事を目標としています。

コンバージョン手術後の抗がん剤治療は、再発予防の為に、当院では手術による体力低下で、全身化学療法が受けられない方に対しては、腹腔内がん治療を単独で行っています。

当院では、腹腔内がん治療を円滑に進めるため、事前に腹腔内に、ポートの留置手術（保険適用）を受けていただいています。末期がんと診断された方は、諦める前に一度ご相談下さい。



医療法人社団 貴正会  
**村上内科医院**  
<https://murakaminaika.com/>

※点滴療法（自由診療）は完全予約制となります。

所在地◆京都府京都市山科区四ノ宮垣ノ内町1  
電話◆075-501-2551  
治療についてのお問い合わせ  
**075-591-4722**（本部）